

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470501574
法人名	有限会社 厚生会
事業所名	グループホーム なのはな
所在地 (電話番号)	津市柳山津興3306 (電話) 059-221-5600
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 9 月 12 日(水)

【情報提供票より】 (H19年8月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 17人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	1,000 円~
敷金	有() 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 100,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(8月27日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢 平均	86 歳	最低 71 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆり形成内科整形 若葉病院 磯田歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療連携体制(1階が形成内科整形)が構築され、利用者・家族等にとって、直接的・間接的な意味合いの安心感が担保されている様に伺える。なお、「心の癒しを介護の心得」として職員は利用者の生活歴を尊重し、コミュニケーションを図り、共に癒される様な関係作りに努めている。なお、当事業所は、近くにスーパーがあり、かつ、交通の便もよく、海も比較的近くにある等、密着型サービスが地域に根付く良好な立地条件にある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 市町事業の受託化が課題であったが、現在、生活保護利用者の受け入れについて市と協議し、取り組んでいる。なお、食事の準備、後片付けは職員が行っているが、手の空いている職員と一緒に食事をしている。(調査当日)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 事業所に利用者や家族等との意識のギャップを埋める良い機会として前向きに捉え実践されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 1回目の開催(6/22)では事業所の実情を知ってもらうことに重点が置かれた内容であったが、同時に自治会長や家族等からの意見も積極的に取り入れ、地域に開かれ、根ざしたグループホームとして有機的に機能し、自治会にも加入している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会は持っていないが、可能な限り意見を受け入れる機会(意見箱も設置)を持ち、ストレートな意見等にも前向きに応じている。ただアンケートの結果から見れば、事業所との意識のギャップがうかがわれる面もあり、改善に向けての調整がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会にも加入し、行事の催しを伝えたり、相互的な交流を目指している。また、医療連携体制が特色の事業所として情報を発信している。今後の方向として、地域の行事等に参加し、相互的交流の機会を多く持ちたいとの方針が見られる。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心の癒しを介護の心得とします」を職員間の共有理念として介護が実践されている。なお、法改正に伴う理念の見直しはされていないが、「地域社会の絆」に関する理念は再確認され、共有化されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の名札の裏面には、理念の各心得が記されている他、事務所・ホール等に掲示されている。このように管理者と職員による理念の共有化は特に抵抗感なく受け入れられ、日々の実践に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長等との会議は月に1回持たれ、夏祭り・音楽会等、季節的な行事を通して、地域住民に情報を発信している。自治会に加入し、ごみの当番等も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所と利用者・家族間に見られる介護や処遇に関する認識のギャップを埋めていく良い機会として、その評価機能を管理者等は前向きに捉え、日々の介護に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回目(6/22)はホームの実情を知ってもらうことを重点的に話し合われたが、次回からはその都度テーマを考え、自治会長の意見にもある「防災」への考え方も話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前回の改善指摘事項(市町事業の委託化)に関連して、生活保護利用者の受け入れについて、市と協議し対応している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「なのはな便り」と行事の際の写真を送付し、かつ、定期的に健康状態や近況を報告している。なお、金銭管理はされていなくて、その都度必要なお金を家族に持ってきてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はもたれていない。利用者が状況等について家族に伝え、家族から職員に伝え話し合いを持つ場合も多い。意見箱は置かれているが、投書はない様子である。また夫婦での入居は隣り合わせの居室になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この半年間職員の異動はない。担当職員のみでなく、全ての職員が常に日頃、本人や家族との信頼関係が維持される様に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員としての技術的向上のための必須条件として、医療的対応(応急的処置・リハビリ等)への実践的研修がなされている。また、希望する研修会には参加がなされている。しかし、年間の研修計画が立てられていない状況である。	○	計画的な研修のスケジュールの立案等を通して、より系統的な介護技術や意欲の向上が図られるように期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、相互訪問等の活動を通して、情報交換に努めている。しかし、地域ブロック的な交流の機会はない。	○	医療連携体制が特色のある当該事業所の特色を活かした、地域ブロック的な事業所との交流の機会を通して、相互的な質のサービスの向上が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に事前の見学や体験入居の機会を設ける等の対応が図られている。入居後落ち着くまで時間を要する利用者も多いが、職員はあせらず対応している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションに時間を要する場合もあるが、利用者から学んだり、職員自体も一緒に楽しむ時間が多くもてるように配慮がなされている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	週に1回(その他必要な都度)、ユニットごとに会議が持たれ(夜勤者は共有)、カンファレンス等により情報を共有し、検討されている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	週1回のケアカンファレンス等を通して、利用者の生活パターンを報告しあい、家族等の関係者の意見や意向も取り入れながら実践可能な介護計画を作成している。	
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の検討会議等を通して、介護計画の見直しが図られている。その基盤としては、週1回のカンファレンスを通じた利用者の継続的な動向の把握によっている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制(1階の形成内科整形との契約)の構築や他の協力病院への移送や外泊、墓参り等の支援が日常的になされ、利用者・家族等にとって安心感が維持されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医との良好な関係に努めるほか、上記の通り、緊急時等3ヶ所の協力病院の利用が可能で受診支援体制は手厚い状況にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所単体ではなく、医療連携体制の基盤を活用して対応していく方針である。なお、終末期等のあり方については、関係者間で、その都度話し合われてはいるが、契約書等には明記されてはいない。	○	家族の考え方は随時変化することが考えられるので、利用者ごとに意思を確認し、できれば確認書の形で取り決めておくこと等について検討してほしい。なお、運営推進会議でも検討されることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護、個人情報取扱同意書により確認され、その必要性と目的・保護の内容については、関係者間で良好に認識されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間帯や入浴の仕方等、生活全般に亘って、個々人のペースに添った対応が日々工夫され、対応されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは職員により行われているが(調査当日)、他の職員は利用者と共に食事し楽しみ、かつ、気を配っている様子が伺えた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は各ユニットごとにもあるが、1階デイサービス施設の大浴場を好む利用者が多く、随時、利用されている。また足場も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴の把握も通して、買い物・読書・園芸・洗濯物の取り入れ・紙の箱作り等、それぞれの場面で役割も兼ね、利用者の生活上の励みとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気に触れることへの大切さが認識され、車椅子の人も散歩やドライブ等の支援や1階デイサービス利用者との交流ができる支援が随時行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は見守りを基本として鍵をかけないケアの実践が抵抗なくなされている。万が一、無断で外出の場合に備え、自治会や近隣交番との連携もなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会等との相互、協力的な対応の話し合いもなされている。なお、昨年3月に隣家の出火により、実際の避難がなされたことは、職員や利用者にとって大きな経験と教訓になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の配置がなされ、十分に吟味、対応がなされている。治療食は4人の利用者で病院食と同じ内容のレベルである。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光がないように配慮されているが、調査当日においては生活感や季節感を採り入れる工夫が、さほど感じられなかった。	○	季節感や時の感覚等が常に見られ、感じられるような生活空間の配慮を一段と期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に簡素で機能的に調整されている居室の様子であった。		